

幕末明治の写真師列伝 第五十一回 内田九一 その十六

『日本写真史年表』（社団法人日本写真協会編）明治3年6月の項によると、内田九一は「長井長義」、「大澤謙二」、「樫村貞軒」の写真を撮影しているという記載が見られる。

明治3年当時、長井長義は、大澤謙二、樫村貞軒、片山國棟と共に神田和泉橋の藤堂邸跡に建てられた大學東校の四人組あるいは四天王といわれ学力抜群の学生だった。

『長井長義傳』によれば、「明治二年浅草で撮した寫眞に長井直安源長義と自署し」とあることや、長井長義の『明治三年正月日誌』に「二日 晴、書状認め増田へ頼む。御屋敷へ差出す寫眞三枚差上ぐ。（後略）」とある記載、海外留学を直前にした明治3年10月頃の「別離の言」に「（前略）諸子の寫眞に対し、希望する所也。」とあること、また長井長義が寫眞百年祭記念講演で「日本最初の寫眞師」という演題で話した際に「尚私が唯今持参して居ります寫眞は慶応二年、三年と明治三年頃東京で矢張り上野先生の所に居つたと聞きました浅草の内田九一といふ人に撮ってもらひました寫眞であります。」と述べていることから、すでにこの明治2、3年当時、長井長義は自分の肖像写真を内田九一の写真館で撮影していることがわかる。おそらくそれが「長井長義傳」に掲載されている「大學東校少寮長時代の先生 明治三年晩冬」とキャプションのある肖像写真がそうであろう。

またこの明治3年10月に第一回海外留学生としてプロイセンに派遣を命じられたことから、長井長義は、大澤謙二、樫村貞軒、片山國棟の4人で写った集合写真があり、この写真は背景にある手摺りや絨毯柄から、内田九一の浅草大代地の写真館で撮影されたことがわかる。長井長義の写真は「石黒忠憲懐旧九十年」（薄田貞敬編、博文館、1936年）の「長井長義氏」という掲載写真で確認することができる。また、この本にはそれ以外にも内田九一が撮影したと思われる以下の写真が掲載されている。

「集合写真」（後列右から小林義直・長谷川泰・土岐頼徳・石黒忠憲・市川 某・山上兼善 前列右から佐藤一之助（一人目）・榎本與七郎（四人目））、「石黒忠憲」（大学奏任出仕当時（明治4年））、「相良知安先生」、「石黒忠憲」（明治6年二等軍医正当時）

豊田市郷土資料館編「舎密から化学技術へ 近代技術を拓いた男・宇都宮三郎」（豊田市教育委員会、平成13年11月1日）に掲載されている「宇都宮三郎旧蔵写真アルバム」（豊田市畷部西町幸福寺所有）には、明らかに内田九一の写真館で撮影されたことがわかる以下の写真が3点掲載されている。

「人物名不詳（3名の男性集合写真）」、「宇都宮貞」肖像写真（宇都宮三郎と明治2年に結婚後、明治3年頃か）、「宇都宮三郎」肖像写真

これらの写真も明治3年頃の、初期の内田九一の写真館の様子を研究する上で貴重な写真である。

明治4年前に作られたとされる横浜の商売番付「大港光商君」には、各界の名士の名と共に「写真」として下岡蓮杖、清水東谷と共に、「写真バ車道 内田九一」として内田九一の名が見える。また、明治4年版の「全国写真師見立番附」が大阪で刊行され勸進元に内田九一の名が記載されている。内田九一は、明治4年2月に太政官御用掛蝮川式胤の依頼を受けた横山松三郎と共に、旧江戸城を撮影している。また、太政官御用掛蝮川式胤は明治4年正月2日35歳の時、横山松三郎、内田九一に自分の肖像写真を撮らせている。蝮川式胤は同年2月23日に荒廃した江戸城を憂い、後世にこの江戸城の姿を残すため、その撮影許可の願書を太政官に申請した。撮影許可が下りたのは、同年2月27日。同年3月9日、すぐに横山松三郎、内田九一などの写真師を連れて江戸城に入り、約5ヶ月かけて、江戸城の外郭及び城内を撮影している。この時には、蝮川式胤も自ら撮影もしている。この時撮影した64枚は後に『新訂観古図説 城郭之部（旧江戸城古写真帖）』として写真アルバムに仕立てられた。

現在この時の写真は明治4年「江戸城」4帖の写真集として東京国立博物館、財団法人霞会館に所蔵されている。また、これらの写真の原版やカメラ機材（江戸東京博物館蔵）が大量に京都で発見されている。これらは『新訂観古図説 城郭之部（旧江戸城古写真帖）』、『鹿鳴館秘蔵写真帖』を参照にいただきたい。ここには内田九一が撮影したと思われる以下の写真がある。

「下乗橋前より二ノ丸東三重橋櫓方向」、「大手三ノ門」、「百人番所」、「本丸御殿跡より天守台を望む」、「馬場先門」、「竹橋門」、「鍛冶橋門」、「日比谷門」、「山下門」、「虎ノ門」、「四谷門」、「市谷門」、「牛込門」、「小石川門」、「水道橋門」、「昌平橋」、「筋違橋門」、「浅草門」などの写真がそうである。

ただ残念ながらこれらの旧江戸城の写真の内、どれを内田九一が確かに撮影した写真なのかはよくわからない。しかし『日本写真史年表』（社団法人日本写真協会編）明治5年の項によると、その根拠は不明ながら、内田九一は江戸城外郭の「平河門」、「清水門」、「竹橋門」、「馬場先門」、「日比谷門」、「浅草門」、「坂下門外」、「山下門」、「鍛冶橋門」、「呉服橋門」、「常盤橋門」、「四谷門」を撮影し、写真帖とするとあることから、これらの江戸城の写真がその時のものとも思われる。『幕末・明治の東京 横山松三郎を中心に』（東京都写真美術館展覧会図録）を参考にすると、『新訂観古図説 城郭之部（旧江戸城古写真帖）』のほとんどは横山松三郎の撮影であることがわかるが、その実態については今後の研究を待ちたい。
(森重和雄)